

# ホームヘルプサービス職の労働実態と問題点

## 札幌市における滞在型ヘルパーと巡回型ヘルパーの勤務形態別の比較

フジワラ キョウコ ツキシマ エリ キシ レイコ\*  
藤原 恭子\* 築島 恵理\* 岸 玲子\*

**目的** 本調査は高齢者のための在宅サービスの一つであるホームヘルプサービスを担うヘルパーを対象とし、滞在型ヘルパー（滞在型）、巡回型ヘルパー（巡回型）それぞれにおける労働実態と健康管理、ソーシャルサポート、満足感、将来的な問題について明らかにすることが目的である。

**方法** 札幌市からホームヘルプ事業の委託を受けている事業所35か所のうち調査協力が得られた34か所に勤務している常勤ならびに週15時間以上勤務している非常勤者（計433人）を対象に、無記名自記式調査票を用いて実施した（回収率80.2%）。勤務状況、仕事内容、専門性、満足感、将来的な問題、研修教育機会、健康管理、ソーシャルサポートについて質問を行い、滞在型ヘルパーと巡回型ヘルパーそれぞれにおける勤務形態（常勤者と非常勤者）別の比較をt検定またはFisher検定を用いて行った。

**結果** 滞在型、巡回型に共通した特徴として、給与に対する満足感が低いこと、体力的な不安が高いこと、上司からのサポートが少ないといった傾向が認められた。滞在型、巡回型ともに、常勤者の給与に対する満足感は低く、非常勤者の腰痛対策の実施率は低かった。また、滞在型では、非常勤者の中期研修（就労後の教育機会）や感染症対策の実施割合が低く、巡回型では、常勤者は離職願望が高いことが示された。その一方で、仕事に対する満足感や継続希望は高く、非常勤者の半数は常勤での勤務を希望していた。

**考察** ヘルパー労働の非常勤者割合の増加を考えると、非常勤者に対する健康管理の徹底や介護サービス向上のための研修教育機会の充実が求められると推察された。また、非常勤者の常勤化や介護サービス労働における労働条件の再検討がホームヘルプサービスの充足につながる可能性も考えられた。

**Key words** : 在宅ケアサービス, ホームヘルパー（訪問介護員）, 勤務形態, ソーシャルサポート, 満足感

---

\* 北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野  
連絡先：〒700-8558 岡山市鹿田町 2-5-1  
岡山大学大学院医歯学総合研究科衛生学・予防医学分野 藤原恭子